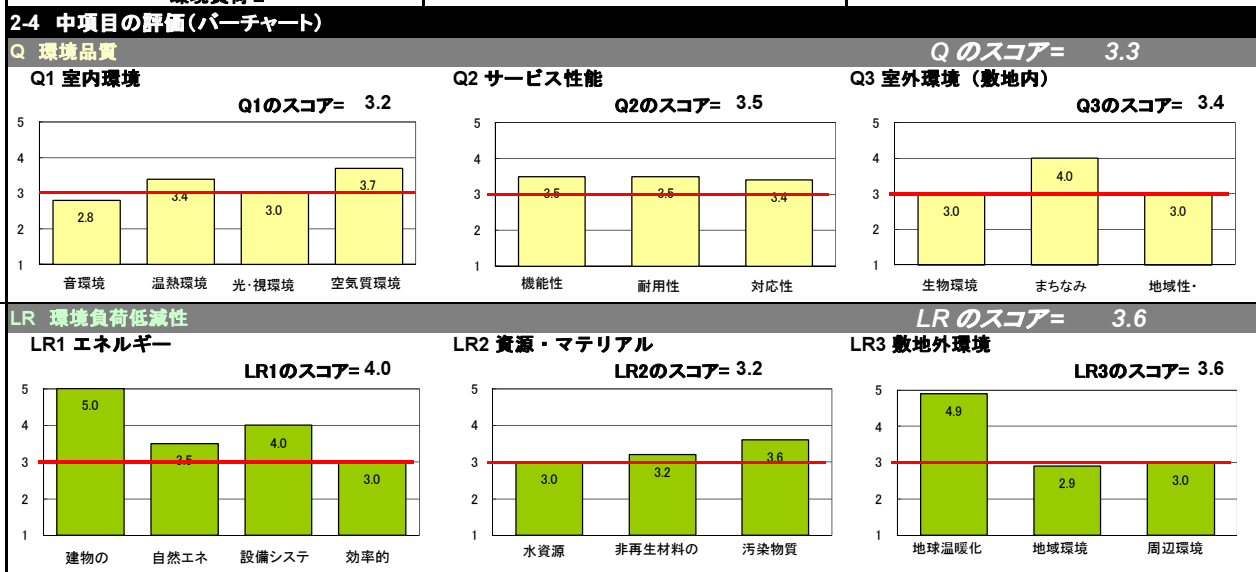
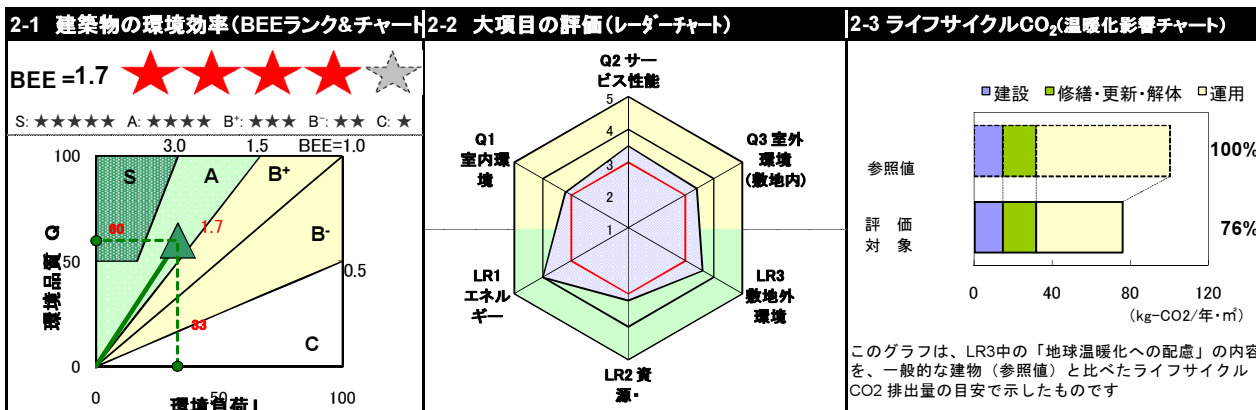


CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都大学(北部)物理国際先端研究棟	階数	地上5F、地下1F
建設地	京都府京都市左京区北白川追分町	構造	SRC造
用途地域	第1種・2種中高層、近隣商業、準防火	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年4月15日
敷地面積	199,530 m ²	作成者	松下典央
建築面積	899 m ²	確認日	2010年5月1日
延床面積	4,582 m ²	確認者	角森康基



3 設計上の配慮事項		
総合 最先端の研究・実験施設として、耐震性の向上やゆとりある荷重と自由度の高い平面計画を行い、研究者の様々なニーズに対応できる施設としている。そのため、可変可能な空間構成と内装・設備計画を行い、日常メンテナンスや設備更新も容易な計画としている。また、外壁外断熱工法を取り入れることで建物としての先端性を実現し、室内環境の安定化を図り省エネルギーにより、地球環境への向上に貢献している。		その他 外装材にPCや押出し成形セメント版等、内装間仕切壁に既製間仕切材等の工場生産品を採用することで、現場施工段階での廃材の削減や省力化を図っている。
Q1 室内環境 屋根・外壁を外断熱、開口部にLow-eペアガラスを採用し断熱効果を高め、年間を通じて安定した室内温熱環境を計画している。また、F☆☆☆☆の認定材料を積極的に使用し、安全な空気環境づくりを目指した。	Q2 サービス性能 耐震性の割増、床荷重にゆとり、室用途に適した内装計画、耐用年数の長い材料の使用により長寿命化を図っている。また、将来の設備更新や日常メンテナンスなどの維持管理。	Q3 室外環境(敷地内) 京都市の景観条例に準拠した建物計画を行い、街並み形成や景観への配慮を行っている。また、建物周囲に適切な空地を設け、緑化や透水性のある舗装を行い、周辺地域の温熱環境への配慮を行っている。
LR1 エネルギー 屋根・外壁を外断熱、開口部にLow-eペアガラスを採用し断熱効果を高め、建物の熱負荷低減に努めている。また、設備設計では、システム効率の高い空冷ヒートポンプ方式や、効率のよい照明器具の採用を行ない、省エネルギー化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 解体、改修、更新時に躯体と仕上げ材が容易に取り外し、分別可能な計画としている。また、使用材料において、汚染物質使用の回避に努めている。	LR3 敷地外環境 法規制等に準拠し、水資源保護や地球環境や周辺環境への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される